

令和4(2022)年度事業報告

公益財団法人阿蘇グリーンストック

一、各事業報告

1 自然保全事業(公1)

【草原保全活動】

(1) 野焼き・輪地切り支援活動

地元の高齢化、後継者不足により草原維持が困難となっている牧野への野焼き・輪地切り・輪地焼きの支援活動及び各種研修会に取り組みました。

同時に安全管理について、地元牧野組合にも協力していただき、現場での作業前の注意事項の伝達等、参加者へ周知徹底を行いました。

年間の支援牧野は66牧野で、延べ2,238名(昨年度2,351名)名のボランティアの参加がありました。実参加者の人数は、今年度は天候も良く3月5日に22牧野に対しボランティアを派遣するなど、野焼きの開催時期が重なったため、やや微減となりました。

昨年度の野焼きでは、延焼による大規模な山林火災が発生し補償問題や延焼防止等の対策が急がれましたが、今年度は市町村の要望を取りまとめ財団が賠償保険に加入するなど新たな動きもありました。

野焼き再開については、南阿蘇村の2カ所(中松、沢津野)で行いました。野焼き支援活動の詳細は下記のとおりです。

① 輪地切り・輪地焼き支援活動

- ・実施時期：2022年9月1日～2023年4月22日
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 43牧野、84ヶ所
- ・派遣人数：延べ1,020名

阿蘇市	21牧野、計485名
南小国町	6牧野、計122名
高森町	6牧野、計245名
南阿蘇村	5牧野、計112名
西原村	4牧野、計48名
産山村	1牧野、計8名

② 野焼き支援活動

- ・実施時期：2022年5月1日～2023年4月28日
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 54牧野、79ヶ所
- ・派遣人数：延べ1,218名

阿蘇市	28牧野、計630名
-----	------------

南小国町	10 牧野、計	161 名
小国町	2 牧野 計	43 名
産山村	1 牧野 計	11 名
高森町	2 牧野、計	131 名
南阿蘇村	7 牧野、計	174 名
西原村	3 牧野、計	88 名

(2) 研修会の開催等

野焼き・輪地切り支援活動の安全管理のための講習会、研修会等を開催しました。また、ボランティア会員の増員に向けて草原保全活動センターを活用し、コロナ禍の中で予防対策を施しながら研修会を開催してきました。会員登録は2023年3月末現在964名です。

- ・野焼き支援ボランティアリーダー全体会

2022年4月23日 39名参加 2022年8月27日 34名参加
2022年12月17日 30名参加 2023年1月29日 46名参加

- ・刈払機安全講習会

2022年7月30日 21名参加 2022年8月7日 17名参加
2022年8月11日 13名参加 2022年8月23日 12名参加

- ・野焼き支援ボランティア初心者研修会

2022年8月21日 44名参加 2023年1月15日 56名参加
2023年1月21日 59名参加 2023年1月22日 63名参加

- ・ボランティアリーダー養成研修会

2022年7月8日 2名参加 2022年7月9日 1名参加

- ・企業を対象とした研修会及び安全検討協議

2023年2月20日 (株)SYSKEN 15名参加

火引き研修会実施牧野

- ・狩尾南山 (阿蘇市)
- ・前川 (南阿蘇村)
- ・中湯田、赤馬場 (南小国町)
- ・沢津野 (南阿蘇村)

(3) 活動時のボランティア宿泊支援

活動時のゆたっと村宿泊に関しては低価格(一般ボランティア1泊700円+光熱費)にて提供し、遠方より参加の場合や、ボランティア開始時間が早い場合、移動

中の自動車事故防止のためにも利用していただけるようしています。今年度はコロナ感染対策のため宿泊人数制限を行い延べ 251 人の利用がありました。

【森づくり活動】

水源涵養の森づくり活動については、新規に東京応化工業様と森づくりの契約を行いました。今後、下草刈りや枝打ち作業等を行っていきます。

また、2022 年度はコカ・コーラ水源の森（阿蘇市）での森づくり活動はありませんでしたが、2023 年度に向けての意見交換をコカ・コーラ様と実施しました。

【普及啓発活動】

野焼き支援活動の情報発信及び草原保全への普及・啓発活動について下記の様に取り組みを行いました。

（1）普及・啓発のための都市部でのパネル展の開催

・名 称 阿蘇草原保全普及啓発巡回パネル展 2022

① 実施日 2022 年 12 月 1 日～12 月 7 日（7 日間）

場 所 モンベル南阿蘇店

② 実施日 2023 年 1 月 13 日～2 月 3 日（22 日間）

場 所 熊本市上通りオモケンパーク

③ 実施日 2023 年 2 月 27 日～3 月 5 日（7 日間）

場 所 アクロス福岡（福岡市）

④ 実施日 2023 年 3 月 14 日～3 月 21 日（7 日間）

場 所 鶴屋百貨店（熊本市）

（2）ASO 草原フェスティバル 2022 の開催

日時 2022 年 11 月 23 日（水・祝）午前 10 時～午後 15 時

場所 草原保全活動センター敷地内及び館内

参加者 約 1,000 名（内ボランティアスタッフ 44 名）

以下のような熊本県、環境省、世界農業遺産等の関係団体にもブースを出していただき、様々な関係者とともに草原関係の事業等を普及啓発することができました。

- ・阿蘇世界文化遺産登録推進協議会の取り組み紹介
- ・阿蘇地域世界農業遺産推進協会の取り組み紹介
- ・阿蘇ジオパーク推進協議会の取り組み紹介
- ・野焼き支援ボランティア活動の紹介
- ・茅事業の取り組み紹介
- ・阿蘇草原応援企業サポーター認証制度の紹介

また、下記のような各種体験について実施し、多くの参加者に楽しんでいただきました。

- ・クラフト体験 ・日産自動車わくわくエコスクール ・チェーンソー体験
- ・大型機械体験 ・木工体験（スプーンづくり） ・ジェットシューター体験
- ・草原短歌コンテスト ・マルシェ ・フリーマーケット ・テレビ中継

（3）シンポジウム、フォーラムの開催

熊本市内で阿蘇の草原をより身近に感じてもらうために、フードイベントと絡めてシンポジウムを開催しました。

- ・名 称：あか牛を食べながら阿蘇の草原を考える
- ・開催日：2023年1月28日（土）
- ・会 場：オモケンパーク（熊本市上通り）
- ・参加者：参加者64名、関係者含め80名ほどの参加
- ・内 容：
 - ・草原で放牧されたあか牛1頭買いの様々な部位を使って調理した牛を食べながら、草原と牛との関係について講演した。
 - ・講演内容：阿蘇の草原の恵みや伝承について、また草原とあか牛の関係についても説明
 - ・講演者：阿蘇グリーンストック 常務理事 増井太樹

（4）草原ボランタリズムの開催

2022年度は一般募集型で3回開催しました。

- ・10月1日（土）福岡発着 参加者21名
- ・10月22日（土）熊本発着 参加者21名
- ・11月20日（日）福岡発着 参加者18名

当初福岡発着1回、熊本発着1回の予定でしたが、福岡発着の申し込みが多数のため、追加開催を行いました。

活動場所：阿蘇市北塚牧野

実施内容：輪地切りの草寄せ体験と阿蘇ゆたっと村でのあか牛バーベキュー

※ 公1の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
活動会員受取会費	1,669,000	野焼き支援ボランティア会費
自然保全事業収益	28,555,633	草原保全システム(1887万)、県サポータ認証事業(376万)、世界農業遺産推進協会(45万)、野焼き専門家集団の育成モデル構築事業(267万円)希少植物保全(84万)、外国人野焼き(121万円)研修会参加費(22万)季刊誌購読(16万)、協賛事業(120万)、等
ゆたっと村利用事業収益	153,200	ボランティア活動時の宿泊費
受取補助金等	10,318,239	阿蘇草原再生募金助成金(200万)ヒゴタイ基金(200万)大東建託みらい基金(100万)、多面的機能支払(531万)
受取寄付金	6,884,584	グリーンコープ、熊本トヨタ、松合食品、コカ・コーラいろはすプロジェクト、SYSKEN、G S C、田園空間博物館、村山牧野、杉本建設、いまきん食堂、個人より
雑収入	1,835,421	野焼き賠償保険の市町村負担金等
収入合計	49,416,077	

人件費計	17,479,505	
物件費計	32,564,474	
支出合計	50,043,979	

(収入) 49,416,077円 - (支出) 50,043,979円 = △627,902円

2 自然体験・農業体験学習事業(公2)

(1) 農村体験型修学旅行受入事業(ファームステイ)

子どもたちが一般の農家に民泊し、阿蘇の農村での生活や様々な農業体験を通して農業・農村の大切さを学び、自然や人とのふれあいを大切にした体験企画などで、青少年の健全な育成を目指すことを目的に取り組んでいます。熊本地震後問い合わせ及び実施団体が少しずつ増えてきていたのですが、コロナ禍により大幅に減少しました。今年度より少しずつ回復の兆しが見えてきました。

2022年度の実績は下記のとおりです。

- ・早稲田大学(9月17,18日) 8名
- ・跡見学園中学校(9月23日) 30名
- ・堺市立陵西中学校(10月4日) 59名
- ・大阪府立今宮工科高等学校(10月27日) 14名
- ・九州動物学院(熊本県) 49名
- 計5校 170人

(2) 環境教育及び農業体験事業

将来の阿蘇を担っていくことになる地元の子供たちをはじめ、都市の子供たち、また高校生、大学生、団体へ、草原トレッキングやクラフト体験などを含め様々な自然・農業体験プログラム等の企画を通じ環境教育について取り組みました。

また、情報館を窓口とした体験プログラムの提供、草原観察、草原データベース作成にも取り組んでいます。

●地元小学生の草原環境・体験学習は以下の通りです。(13校、466名受講)

- ・阿蘇市 阿蘇小学校5・6年生、阿蘇西小学校3・4年生
一の宮小学校4年生、内牧小学校4年生
- ・南小国町 りんどうヶ丘小学校3・4年生
- ・小国町 小国小学校4年生
- ・産山村 産山学園義務教育学校4年生
- ・高森町 高森中央小学校4年生、
高森東学園義務教育学校4年生
- ・南阿蘇村 白水小学校3年生、南阿蘇西小学校3年生
- ・西原村 山西小学校3年生、河原小学校3年生

(3) ゆたっと村での体験事業

修学旅行生、地元団体、一般の方などを対象に、ゆたっと村里山交流館の周辺の農地、山林等を利用した里山の暮らしの体験の提供については、コロナ禍により修学旅行などの団体利用、家族などの一般利用がありませんでした。

公2の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
村民受取会費	195,000	村民会費
自然体験・農業体験学習事業収益	2,514,395	民泊・体験受け入れ(70万)、ヒゴタイ基金(65万)、阿蘇市感染対策(3万)阿蘇市公園管理委託費(15万)
ゆたっと村体験事業収益	0	
補助金	500,000	熊本県より
雑収入	10,500	
収入合計	3,219,895	
人件費計	1,557,041	
物件費計	1,753,446	
支出合計	3,310,487	

(収入) 3,219,895円 - (支出) 3,310,487円 = △90,592円

3 調査・研究事業（公3）

阿蘇市、熊本県、環境省から希少な植物が分布する場所の保全調査及び作業を引き受けました。

公3の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
事業収入	1,512,050	阿蘇市 37.4 万、熊本県 54.8 万、農業遺産 45 万、環境省 14 万
収入合計	1,512,050	

人件費計	398,801	
物件費計	1,135,530	
支出合計	1,534,331	

(収入) 1,512,050 円 - (支出) 1,534,331 円 = △22,281 円

4 あか牛オーナーへのあか牛肉販売事業（収1）

阿蘇の草原を守るためには、阿蘇の草原を利用した畜産業の発展が最も有効な手段となります。独自の事業として阿蘇のあか牛の増頭又は維持に向けた畜産農家への支援のために県内外の方へオーナーへの参加を呼び掛けました。新規契約もあり、昨年度とほぼ変わらないオーナー数を確保しています。

① あか牛オーナー制度について

2022 年度新規契約オーナー数 5 名 1 団体（あか牛 7 頭）

2022 年度のオーナー数 41 名 1 団体（あか牛 42 頭）

※参考 2021 年度実績 43 名（あか牛 43 頭）

受入牧野のエリアに関しては、阿蘇市 6 牧野、南小国町 1 牧野、南阿蘇村 3 牧野、高森町 5 牧野となっています。オーナー代表者会議を年 2 回開催し交流会についても年 2 回開催しました。

② あか牛肉販売について

あか牛オーナー制度（オーナーより 1 頭につき 30 万円を預り金扱いとし、30 万円を畜産農家へ繁殖牛購入資金として無利子で貸し出す）では、年間 6 万円を目途にオーナーの申込みに応じてあか牛肉を 5 年に亘ってお届けするものです。こちらは例年とほぼ同様の事業収益がありました。

収1の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
活動会員受取会費	106,000	オーナー・農家より
事業収益	2,615,840	あか牛肉他の利用
雑収入	133,090	運送費、保冷箱、保冷剤代オーナー負担

収入合計	2,854,930	
------	-----------	--

人件費計	289,206	
物件費計	2,507,561	
支出合計	2,796,767	

(収入) 2,854,930 円 - (支出) 2,796,767 円 = 58,163 円

5 食事提供及び農産物の販売等事業（収2）

一般の団体や個人のゆたっと村の宿泊利用、あか牛肉の利用普及のためのバーベキューの提供、また、農産物の販売などを行いました。コロナ禍の2021年よりもBBQの売り上げが増えたほか、特定の事業者にも農産物を販売する仕組みもできたことからの売上も少し増加しました。

① 宿泊での利用は以下の通りです。

・ 宿泊利用 126 人

② 農産物の収穫・販売をしました。

・ 椎茸 ・ 落花生 ・ 栗 ・ ブルーベリー ・ 梅 ・ ゆず ・ さといも

収2の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
事業収益	1,153,490	宿泊・体験 (18.5 万)、BBQ (57 万)、農産品 (40 万)
雑収入	12,890	九電賃料
収入合計	1,166,380	

人件費計	320,432	
物件費計	846,926	
支出合計	1,167,358	

(収入) 1,166,380 円 - (支出) 1,167,358 円 = △978 円

6 受託調査事業（収3）

阿蘇草原再生野草地環境保全計画調査事業（環境省、通称「牧野カルテ」）について阿蘇草原再生協議会会員で国立公園内の牧野組合を対象とした環境省による調査事業で、草原文化（草原の活用、地名、希少動植物等の調査）及び草原再生（野焼き作業軽減の為の防火帯整備等の調査）の調査に取り組みました。

今回の調査対象牧野は、小倉牧野（阿蘇市）、前川牧野（南阿蘇村）、沢津野（南阿蘇村）の3牧野で実施しました。また、地名調査のみ、鳥子区（西原村）、吉原（南小国）、笹倉（阿蘇市）で実施しています。

収 3 の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
事業収益	13, 145, 000	環境省入札
収入合計	13, 145, 000	

人件費計	5, 838, 085	
物件費計	7, 143, 355	
支出合計	12, 981, 440	

(収入) 13, 145, 000 円 - (支出) 12, 981, 440 円 = 163, 560 円

7 受託管理事業 (収 4)

(1) 事業の内容

環境省の「草原学習館」及び阿蘇市の「草原情報館」の2つの施設管理を受託し、それぞれ下記のような施設概要で、連携して管理運営にあたりました。主には財団で施設、警備、清掃、日常管理、総合窓口、来客者対応、案内、展示物管理、情報提供ホームページ管理等を行ってきました。情報館ではワーケーションの場として利用がなっています。

- ・ 草原学習館来館者・利用者数 8, 092 人
- ・ 草原情報館来館者・利用者数 6, 709 人

(2) 施設の概要

①環境省「草原学習館」

- ・ 規模：建築面積 806. 28 m²、延床面積：684. 37 m²
- ・ 構造：木造平屋建て
- ・ 機能：レクチャールーム、展示、屋外作業スペース、事務室、トイレ、倉庫
- ・ 駐車場：普通車 33 台、身障者用 1 台、大型バス 2 台

②阿蘇市「草原情報館」

- ・ 規模：建築面積 729. 48 m²、延床面積：648. 07 m²、広場：1, 200 m²
- ・ 構造：木造一部鉄骨造平屋建て
- ・ 機能：ワークスペース、事務室、オフィス、トイレ、倉庫、駐輪場
- ・ 駐車場：普通車 71 台、身障者用 2 台、大型バス 2 台

収 4 の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
受託管理事業収入	9,198,640	草原学習館 (787 万)、草原情報館 (132) 万
収入合計	9,198,640	

人件費計	5,591,384	
物件費計	3,614,842	
支出合計	9,206,226	

(収入) 9,198,640 円 - (支出) 9,206,226 円 = △7,586 円

7 法人会計

月次決算等、会計処理については公認会計士に委託して運営しました。

法人会計の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
基本財産運用益	400,000	20 年国債 (金利 1.6%)
維持賛助会費	2,781,000	個人会員 67 名 (20 万円) 団体会員 50 企業団体 (258 万円)
雑収入	956,246	講師報酬、費用弁償他
収入合計	4,137,246	

人件費計	1,315,524	
物件費計	2,764,979	
支出合計	4,080,503	

(収入) 4,137,246 円 - (支出) 4,080,503 円 = 56,743 円

二. 2022 年度収支決算について

(1) 上記のとおり事業全体としての経常利益は下記の通りです。

(収入) 84,650,218 円 - (支出) 85,121,091 円 = △470,873 円

(2) 公益事業比率は、54,888,797 円 ÷ 85,121,091 円 = 64.48%

となります。